

Y4-27

院内ポータルサイトの運用～コストを
掛けずにどこまで出来るか～

北見赤十字病院 事務部 総務課
山内 環、真壁 寿一

【はじめに】当院では2001年より院内情報の共有を目的にイントラネット内にwebサーバを設置・ポータルサイトを構築し10年が経過した。平日は約2900回程度のアクセスがあり職員にも浸透したが、出来るだけ既存のソフトウェアを使用しコストを掛けず素早い情報公開に取り組んでいる当院のポータルサイトの内容について紹介する。

【システム概要】webサーバソフトはIIS6.0を使用し、サイトの編集にはマイクロソフト社のOffice製品に付属の「フロントページ」を使用するなど、いずれも新しくソフトを購入することなく運用している。コンテンツのバックアップにはフリーウェアのバックアップソフトを使用し別端末に残しているのでトラブル発生時にもすばやい復旧が可能である。

【コンテンツ概要】各種お知らせの他、会議室・IT機器・外来化学療法ベッド等の予約システムをフリーウェアのプログラムを改造し使用している。各部署の情報公開にはExcelを使用しWeb形式でサーバに反映させているので、特別に編集用ソフトを購入することなく素早い情報公開が可能となっている。その他、本社で一括契約しているメディファックスWEBの記事を毎日掲載、レジメンやクリニカルパスを各科ごとに整理して掲載、連携医療機関の検索システム等も掲載している。

【運用の評価】費用をかけずに上記のコンテンツを院内ポータルサイトで公開ができた。中でも所属部署や氏名で検索できる職員一覧は、氏名はもちろん所属部署・メールアドレス・顔写真を掲載しており職員に大変好評である。

【今後の課題】掲載情報量が多すぎ、必要な情報を探しづらい状況である。検索システムを導入しているが思い通りに検索できないことも多く、今後情報を整理し検索システムを強化することが必要である。

Y4-28

名古屋八事（やごと）地区における整
形外科地域医療連携

名古屋第二赤十字病院 整形外科¹⁾、
リハビリテーション科²⁾、
地域医療連携センター³⁾、
医療社会事業部⁴⁾、薬剤部⁵⁾、栄養課⁶⁾

佐藤 公治¹⁾、安藤 智洋²⁾、北村 伸二¹⁾、
深谷 泰士¹⁾、古城 敦子³⁾、細江 浩典²⁾、
黒木 信之⁴⁾、田宮 真一⁵⁾、甲村 亮二⁶⁾、
中川 智美¹⁾

当院の所在地である名古屋市東部八事地区の整形
外科地域医療連携について、当院整形外科が取り組
んで来た地域連携に関することを紹介する。1999年
八事整形会を発足。近隣の医師と整形外科疾患につ
いての症例検討会を行う。日整会・リハ学会・医師
会の研修単位付き講演会を年4回。毎回数十名集ま
る。2002年八事整形医療連携会を発足、近隣の医療
施設とコメディカルを中心に研究会を年4回行う。
毎回100名を超す。2003年大腿骨頸部骨折地域連携
バス作製し施行。全国的に有名と成った。年一回バ
ス見直しのワークショップを行う。2010年からは維
持期を含めたバス。2006年診療報酬に収載された。
2008年脳卒中も診療報酬に収載され神経内科と合同
委員会を開催。2009年名古屋市内の6計画病院がま
とまり名古屋整形外科医療連携会を発足。我々の地
域連携バスを元に名古屋での共通バスが出来上った。
年一回、名古屋大腿骨頸部骨折連携バス拡大大会
議を行う。2009年院内連携バス委員会が発足。2010
年ホームページを立ち上げた（<http://yagoto.umin.jp/>）。2010年八事地区の整形外科救急連携のため八事整形外科救急医療連携検討委員会を立ち上げ、メーリングリストを運用開始。近隣の聖霊病院整形外科・名古屋記念病院整形外科と毎朝に手術数・空床状況・人手などを情報交換。2010年昭和区災害訓練に協力。当院の院内訓練と同日に昭和区医師会（整形外科医）と災害医療訓練。2011年NPO名古屋整形外科地域医療連携支援センター立ち上げた。これにより有志の任意団体から公的な団体へと進化脱皮した。これらの立ち上げや運営のノウハウにつき検討し報告する。